

消防千葉

2014 No.525 平成26年1月号

平成26年1月1日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801 (定価50円)
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



あかぎ



流星



流馬



若葉

流 鉄 (東葛飾支部)

平成26年 知事年頭あいさつ



明けまして
おめでとうございます。



県下34,000有余名の消防職員、消防団員並びに関係者の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

皆様には、常日頃から火災をはじめとする様々な災害から、地域住民の生命、身体及び財産を守る責務を全うするため、日夜、献身的に職務に精励されておりますことに、深く敬意と感謝の意を表します。

さて、県では、新たな総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」を策定し、次のステージに向けた一歩を踏み出しました。

この計画に基づき、災害に強い千葉県づくりや、第2の交番として期待されるコンビニ防犯ボックスを拠点に地域と連携した防犯対策など、安全・安心な県民生活の基盤を固めるとともに、県経済の活性化、農林水産業の競争力強化を図り、千葉県を更に発展させてまいります。

県民生活の安全・安心の確保については、災害時においては生命身体を守ることはもちろんのこと、災害からの被害を減らすことが重要であり、災害から自らを守る「自助」、近隣住民が協力しながら地域を守る「共助」、県や市町村等による「公助」が一体となって防災対策へ取り組むことが必要です。

そこで、防災に関する基本理念と県民、事業者などの各主体が取り組むべき基本的な事項を定め、本県の地域防災力のより一層の向上を図るため、昨年12月に「千葉県防災基本条例」を制定したところです。

また、老朽化した消防学校の建替えについては、新たな消防学校の立地場所を市原市に決定いたしました。今後、消防職員、消防団員の皆様が、1日も早く最新の設備で実践的な訓練ができるよう努めてまいります。

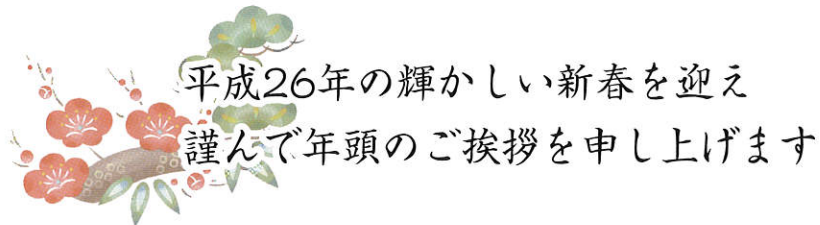
本年も、東日本大震災からの復旧・復興に全力で取り組むとともに、地域防災力をより一層向上させ、「防災先進県・千葉」を目指してまいります。そして、県民の皆様が「くらし満足度日本一」を感じられる「日本一の光り輝く千葉県」づくりに向けて、全力で県政運営に取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本県消防のますますの発展と、皆様の御活躍をお祈り申し上げまして、年頭のあいさつといたします。

平成26年元旦

千葉県知事 森田 健作

年頭のごあいさつ



消防職・団員並びに消防関係の皆様には、常日頃、地域の安心と安全を守るため、日夜献身的な活動を続けられておりますことに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、平素から当協会に格別のご支援、ご理解を賜り、衷心よりお礼申し上げます。

さて、自治体消防は、関係各位のご努力により、各時代の要請に応えつつ、着実な発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として住民から多大な信頼と期待が寄せられております。

東日本大震災以来、首都直下型地震や南海トラフ地震等の発生が危惧され、また、去年は台風や竜巻、豪雨など災害が多発し、本県でも野田市や茂原市などで大きな被害を受けました。

このような中、昨年臨時国会において、消防団に対する支援の方向づけを示し、消防団を中核とした地域の防災力を強化する具体的な施策を定める「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。

消防関係の皆様には、新しい法律をいかし、力を合わせて地域防災の確立に向け、更なるご尽力をお願い申し上げる次第でございます。

本年は、8月に第43回全国消防救助技術大会が消防学校で、また11月に第20回全国女性消防団員活性化ちば大会が浦安市において開催されることになっており、千葉県の消防が全国から注目されるたいへん重要な年であります。

全国女性消防団員活性化ちば大会は、全国の女性消防団員が一堂に集い、日頃の消防団活動等について情報交換することにより、幅広い知識と視野を習得し、その活動を一層活発化させることを目的としています。この大会を圧倒的な盛り上がりの中で開催し、本県女性消防団の強化と合わせ、進行する消防団員の減少に歯止めをかけたいと考えております。

これら全国大会のほか、千葉県消防協会としましても、本県消防の発展のため、防火防災思想の普及啓発、消防団員の確保策の策定、消防団の活性化、消防職・団員の福利厚生促進等に全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が災害のない平穏な年でありますよう、また本県消防の益々の発展と皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

平成26年元旦

公益財団法人千葉県消防協会会長
千葉県少年婦人防火委員会会長

石橋 毅

明けましておめでとうございます 平成26年 元旦

栄町消防団長 芝野 照敏

〈香取支部〉

香取広域市町村圏事務組合

香取市消防団長 林 清一

神崎町消防団長 高柳 智

香取広域市町村圏事務組合

多古町消防団長 佐藤 博勝

香取広域市町村圏事務組合

東庄町消防団長 伊藤 進

〈海匝支部〉

銚子市消防団長 芝岸 弘

匝瑳市消防団長 鈴木 淳一

旭市消防団長 鈴木 格

〈山武支部〉

東金市消防団長 布留川博保

山武市消防団長 花澤 健

大網白里市消防団長 地椛 憲夫

九十九里町消防団長 作田 利通

芝山町消防団長 小川 総夫

横芝光町消防団長 椎名 孝次

〈長生支部〉

長生郡市広域市町村圏組合

消防団長 小高 利広

〈夷隅支部〉

勝浦市消防団長 中村 東雄

いすみ市消防団長 齋藤 芳一

大多喜町消防団長 二階堂 孝

御宿町消防団長 小川 征

〈安房支部〉

館山市消防団長 濱田 正道

鴨川市消防団長 田代 朗

南房総市消防団長 鈴木 勝一

鋸南町消防団長 宇部 好弘

〈君津支部〉

木更津市消防団長 竹内 克哉

君津市消防団長 松崎 良成

富津市消防団長 石井 輝之

袖ヶ浦市消防団長 吉田 政幸



千 葉 県

防災危機管理部長 中岡 靖

消防課長 吉田 篤史

危機管理課長 伊藤 亮一

消防学校長 酒井 正人

千葉県消防協会連合会

一般社団法人千葉県消防設備協会

東京電力株式会社東火力事業所

千葉火力発電所

鬼怒川ゴム工業株式会社

日本曹達株式会社千葉工場

株式会社MORESCO千葉工場

丸善石油化学株式会社千葉工場

旭硝子株式会社千葉工場

コスモ石油株式会社千葉製油所

東京電力株式会社東火力事業所

五井火力発電所

東京電力株式会社東火力事業所

姉崎火力発電所

三井化学株式会社市原工場

住友化学株式会社千葉工場

極東石油工業合同会社千葉製油所

日立化成株式会社五井事業所

電気化学工業株式会社千葉工場

日本中央競馬会 中山競馬場

流山キックマン株式会社

成田国際空港株式会社

空港運用部門保安警備部

成田山新勝寺

日華化学株式会社 関東工場

三井化学株式会社 茂原分工場

双葉電子工業株式会社

広栄化学工業株式会社

富士石油株式会社袖ヶ浦製油所

東京電力株式会社東火力事業所

袖ヶ浦火力発電所

(順不同)



明けましておめでとうございます

平成26年 元旦

公益財団法人千葉県消防協会

最高名誉顧問

倉田 寛之

特別顧問

石井 利孝

会長

石橋 毅

副会長(消防長会)

石井 幸一

同(海匝支部長)

芝岸 弘

同(印旛支部長)

野口 文夫

同(山武支部長)

布留川博保

同(東葛飾支部長)

小田山博史

理事

鈴木 良紀

同(千葉支部長)

三代川彦博

同(香取支部長)

伊藤 進

同(長生支部長)

小高 利広

同(夷隅支部長)

中村 東雄

同(安房支部長)

宇部 好弘

同(君津支部長)

竹内 克哉

同(消防長会)

奥野 三男

同(消防長会)

前田 佳暁

同(県消防課長)

吉田 篤史

同(県危機管理課長)

伊藤 亮一

同(県消防学校長)

酒井 正人

専務理事

中澤 正道

常務理事

今関 達夫

監事(東葛飾支部)

小倉 邦裕

同(印旛支部)

齊藤 一郎

同(消防長会)

川口 利治

千葉県消防協会評議員

千葉支部

岩井 精一

同

中山 光夫

東葛飾支部

川島正二郎

同

渡辺 義博

印旛支部

鈴木 昭三

同

塚本 正英

香取支部

中田 肇

同

佐藤 博勝

海匝支部

宮内 忠

同

鈴木 淳一

山武支部

大塚 雅彦

同

作田 利通

長生支部

高橋 茂

同

鈴木 治夫

夷隅支部

露崎喜巳雄

同

斎藤 芳一

安房支部

末村 幸次

同

鈴木 勝一

君津支部

高橋 進一

同

石井 輝之

公益財団法人千葉県消防協会

顧問会役員等

相談役

田中 榮一

同

松島 洋

同

金坂 光一

会長

川崎吉太郎

副会長

近藤 博

同

森 正三

同

小倉 義雄

同

伊藤 満男

同

石川 實

同

三代川利男

同

秋元 浩司

同

金子 裕

同

藤江 進一

同

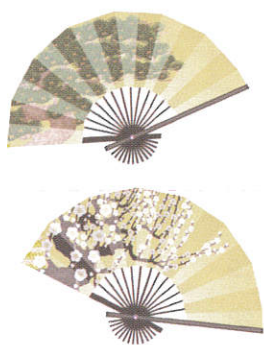
目良 和夫

同

吉野 正壽

監事

石毛 忠治



県下市町村消防団長

〈千葉支部〉

千葉市消防団長 白井 正巳

習志野市消防団長 三代川彦博

市原市消防団長 中山 光夫

八千代市消防団長 安原 健吉

〈東葛飾支部〉

市川市消防団長 高橋 廣孝

船橋市消防団長 渡辺 義博

松戸市消防団長 齋藤 和實

野田市消防団長 近藤 利夫

柏市消防団長 小田山博史

流山市消防団長 小倉 邦裕

我孫子市消防団長 吉田喜一郎

鎌ヶ谷市消防団長 澁谷 誠幸

浦安市消防団長 平林 清重

〈印旛支部〉

成田市消防団長 村島 義則

佐倉市消防団長 櫻井 道明

四街道市消防団長 塚本 正英

八街市消防団長 齊藤 弘一

印西市消防団長 川上 賢二

白井市消防団長 川上 正紀

富里市消防団長 野口 文夫

酒々井町消防団長 齊藤 一郎

平成25年度 消防功労者等の決定

消防業務または消防行政などに功労のあったもの及び消防の永年勤続者に対して、(財)日本消防協会と(公財)千葉県消防協会から表彰する平成25年度の消防功労者等がこのたび決定しました。平成25年度は、1,229人が受章されます。

- (1) (財)日本消防協会長表彰 平成26年2月28日(金)日本消防会館 ニッショウホール
 (2) (公財)千葉県消防協会長表彰 平成26年3月18日(火)青葉の森公園芸術文化ホール

支部別消防功労者等一覧

平成25年12月10日現在

	千葉	東葛飾	印旛	香取	海匝	山武	長生	夷隅	安房	君津	協会	合計
日本消防協会長	55	98	60	14	12	13	15	11	13	16		307
特別功労章												0
特別表彰まとい	1											1
表彰旗		1										1
竿頭綬												0
功績章(一般)	4	6	6	3	2	3	2	2	2	3		33
功績章(女性)	1											1
精績章(一般)	10	15	14	6	6	8	4	5	5	7		80
精績章(女性)	1	1										2
勤続章	38	75	40	5	4	2	9	4	6	6		189
優良女性消防隊												
優良女性消防隊員												
永年勤続職員表彰												
千葉県消防協会長	131	267	152	49	53	68	41	36	55	70		922
出初式	65	100	83	38	37	49	25	30	37	45		509
功労章	16	25	22	9	9	12	6	7	9	11		126
精勤章	49	75	61	29	28	37	19	23	28	34		383
千葉県消防大会	66	167	69	11	16	19	16	6	18	25		413
特別功労章	1	1	2	2	1	2	1	1	1	0		12
永年勤続功労章	33	77	35	3	6	8	7	2	7	13		191
功績章	4	7	6	3	3	3	2	2	3	3		36
表彰状	個人	7										7
	団体	1	2									3
感謝状	ア	27	68	26	3	6	6	1	7	9		159
	イ		5									5
合計	186	365	212	63	65	81	56	47	68	86		1229

平成25年度 消防団員指導員研修の開催

11月2日(土)～3日(日)

新入団員や比較的経験の浅い消防団員の教育訓練にあたる消防団の副団長、分団長など幹部を対象にした指導員の第41期の養成研修が、11月2日から3日の1泊2日の日程により、千葉県消防学校において行われました。

研修には34所属、51名が参加し、2日9時30分から入校式が行われ、国歌斉唱、入校生指名点呼の後、石橋消防協会長の式辞、酒井県消防学校長及び所属を代表して齊藤八街市消防団長の挨拶がありました。



石橋協会長の式辞



酒井学校長・齊藤八街市消防団長の挨拶

その後、内務規律や幹部心得などの講義を受け、午後からはあいにくの雨となったため屋内訓練場において訓練礼式や心肺蘇生などの救急法の実地訓練を行いました。

宿泊は千葉湊の「ポートプラザちば」で、バスによる送迎が行われました。

3日は、8時半からの朝礼に続き、消火活動の火災防ぎょ、消防訓練のホース展張の研修を行い、午後4時からの修了式で、全員が修了証書を受けて全課程を無事修了しました。



救急法の訓練



消防訓練



消防団120年・自治体消防65周年記念大会の開催

平成25年11月25日(月)、「消防その愛と力」を大会テーマとして消防団120年・自治体消防65周年記念大会が財団法人日本消防協会と全国消防長会の主催により東京ドームで開催されました。



明治27年の消防組規則(勅令)の制定により全国的に統一した消防組(消防団の前身)がスタートしてから120年目を迎え、自治体消防が発足から65周年であり、これを記念する大会を開催し、我が国消防の発展のあとを

振り返るとともに、国民の安全確保のため、消防関係者が一致協力、東日本大震災の教訓を生かし、より一層強固な消防体制づくりに邁進する決意を固めるものです。

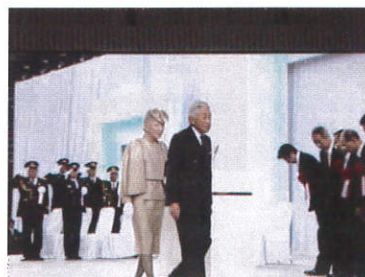
7時30分から9時まで都道府県毎に約3万2千人の消防職・団員、消防関係者の入場に合わせ、8時30分



からの「検証 阪神淡路大震災と消防」と「自ら守る！消防団120年」のDVD上映に続き、9時40分からは司会の徳光和夫・平野啓子さんの紹介による「劇団ふるきやら」の「地震カミナリ火事オヤジスペシャルメドレー」、栗田けんじさんの「笑顔の故郷築くため～消防団を讃える唄」に続いて10時から江戸時代の町火消の伝統を受け継ぐ消防演技として「江戸消防記念会による木遣り」、「全国の消防団員等による纏振り」「江戸消防記念会等によるはしご乗り」が行われました。なお、纏振りには松戸市と柏市の消防団員が参加しました。



その後、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、長野のラッパ隊による開会演奏、全員の黙祷の後、秋田日本消防協会副会長の開式の辞により第1部の記念式典が始まりました。



国歌斉唱に続いて、秋本日本消防協会会長より「明治27年の消防組規則の制定による消防組のスタートから120年、先人の御努力による日本消防発展の歩みを振り返り、消防実技の変遷をたどると共に東日本大震災の体験を踏まえて、一致団結してあらゆる災害・事故に最善の対処をすることができる、より強い消防体制づくりに邁進するために本大会が新たな発展への力強いステップとなることを願っています。」との式辞が述べられました。



総理大臣表彰・総務大臣表彰各1名、日本消防協会会長表彰5名、日本防火・防災協会会長表彰3名及び全国消防長会会長表彰1名の表彰が行われた後、安倍総理大臣や衆参両議院議長、最高裁長官の祝辞が述べられ、渡邊日本消防協会副会長の閉式の辞により記念式典は終了しました。

11時からは、ラッパ隊の演奏により第二部の「消防実技—日本消防の歩みと展望—」が始まり、100年前の腕用ポンプからの放水(習志野市消防団参加)、50年前のオート三輪ポンプ



車・現代の消防団多機能車からの放水、少年消防クラブによるD級可搬ポンプからの放水による放水訓練が行われました。

その後、大地震発生を想定した救急救助訓練

として常備消防による救急工作車、はしご車、高規格救急車などを使用した高所からの救出活動、消防団による倒壊家屋からの救出(旭市消防団参加)、救護活動、婦人防火クラブによる応急手当などの活動が行われました。



11時30分からは第三部「消防の士気高揚に向けて」として、長野外6県のラッパ隊によるオープニング演奏に続き、千葉市外4隊の消防音楽隊・カラーガード隊によるメドレー演奏、幼年消防クラブ鼓笛隊によるパレード演奏が行われた後、AKB48や布施明、水前寺清子さんによるライブ、菅原文太・水前寺清子・小倉優子さん等の消防応援団による激励トークが行われた後に出場者全員によるグランドフィナーレとして水前寺清子さんが歌う「消防団三百六十五歩のマーチ」に合わせて会場全体でダンスを行いました。



最後に、全国消防関係者のこれからの消防体制づくりに向けた決意を明らかにする「消防未来宣言」を採択し、石田日本消防協会副会長の発声による「万歳三唱」で12時45分に記念大会を終了しました。

千葉県からは、消防団員・消防職員・婦人防火クラブ員・消防関係者等1,700名が参加しました。

消防未来宣言

日本消防は百年以上にわたる先人のご尽力によって発展し、今日広く信頼を得るに至っている。

私たち消防人は、自らの地域は自ら守るという先人の熱い思いを受け継ぎ、国民の皆さんのご理解とご協力のもと、全国一致団結し、新しい技術等も積極的に導入しながら、少年、女性を含む地域住民の皆さんとともに、より強固な未来の日本消防づくりにまい進する。

そうして社会経済の進展に伴い変化をみせるあらゆる災害事故に対処し、国民の安全を守るため、全力を尽くすことを固く誓い、ここに宣言する。



新しい技術等も積極的に導入しながら、少年、女性を含む地域住民の皆さんとともに、より強固な未来の日本消防づくりにまい進する。そうして社会経済の進展に伴い変化をみせるあらゆる災害事故に対処し、国民の安全を守るため、全力を尽くすことを固く誓い、ここに宣言する。

我が町の消防団

横芝光町消防団

横芝光町は千葉県北東部に位置し、東西約5km、南北約14kmと南北に細長く、面積は66.9k㎡で、白砂青松の続く九十九里浜が広がる太平洋に面し、町中央部にはかつての上総国と下総国の境界であった九十九里平野における最大の河川「栗山川」が流れ、海・山・川と豊かな自然に囲まれた町であります。



椎名孝次消防団長を筆頭に、定数520人の消防団員、1本部、8分団、26部で組織し、団本部指揮車1台、ポンプ自動車9台、小型動力ポンプ付積載車(うち水槽付3台)17台を配備、約2万5千人の町民の生命・財産を守るために日夜活動しています。



年間を通じて、主な消防団各種活動を紹介しますと、4月に消防団幹部を対象とした教養訓練、各部団員を対象に自動体外式除細動器(AED)を用いた普通救命講習会を開催し、消防団員としての資質向上を図っています。5月には消防技術・知識の更なる向上を目的に消防ポンプ操法大会を毎年開催し、消防団員同士のより一層の連携強化、厳しい訓練から得る一体感を高め、団全体の消防精神を高めています。

秋季及び春季の全国火災予防運動週間には、火災予防活動の一環として、町内一円を巡回する「防火パレード」を実施し、積極的に防火啓発の普及に努めています。



11月には各団員の実戦的な消火活動の技術・知識の習得、迅速確実、且つ実戦的な能率を目的とした、中継放水訓練を匝瑳市横芝光町消防組合消防本部の指導を頂き火災防御に万全とする訓練を実施しております。

また、地震や風水害等の大規模災害発生時には消防団の活動が非常に重要であることから、毎年9月に町全域を対象として開催される防災訓練には消防団として参加し、避難誘導訓練及び情報伝達訓練や初期消火訓練を実施し、町及び防災関係機関・町民と一体となって防災意識の高揚に努めています。

近年、全国的に消防団員の減少が問題となっていますが、当消防団においても勤務消防団員の増加などにより日中の消防団員不足が重要な課題となっていることから、消防団の必要性を幅広く啓発していくことで、消防団員がスムーズに確保できるように努め、更には消防団OBや消防協力者で構成する機能別分団の制度を検討していきたいと考えております。

今後も「安心・安全に生活できる町」、「地域に根ざした消防団」を目指し、町民の期待に応えられるよう精進して参りたいと思います。



東 南 西 北

消防フェスタの開催

柏市消防局

柏市西部消防署では、市民参加型イベント「消防フェスタ」を平成25年11月2日(土)にモラージュ柏の隔地駐車場で開催しました。

当日は、将来の担い手となる子供たちを中心に、ちびっこ消防車乗車、ジュニア救命士の育成、水消火器による初期消火訓練、実際に消火活動で使用しているホースの延長や放水体験、梯子車体験乗車など、様々な体験をしていただき盛大に開催することが出来ました。

来場された方からは「色々な体験が出来て本当に良かったです、また、開催してください」との声もいただきました。



「消防ふれあい広場」の開催

船橋市消防局

船橋市北消防署(湯浅文久署長)では、秋季全国火災予防運動に伴い、11月9日(土)船橋市北消防署行田分署において「消防ふれあい広場」を開催いたしました。

昨年から、地域の方々との「ふれあい」をテーマとして、消防署内を探索しながらの体験型スタンプラリーや普段立ち入ることの出来ない署内の見学、検索救助室を活用しての暗闇体験、重機車両などの体験乗車、防災井戸を利用した放水体験、起震車を使った地震体験、庁舎最上階からの街並み見学など、地域の方々とはふれあいながら火災予防について、学んでいただきました。



住宅用防災機器設置促進の広報活動

松戸市消防局

秋季火災予防運動期間中の平成25年11月10日に、小金北地区少年消防クラブ、女性防火クラブ及び松戸市防火協会大金平支部並びに大金平消防署が合同で、本土寺において市民や参拝者に対し、住宅用防災機器設置促進の広報活動を実施しました。

昭和57年3月27日に発足した小金北地区少年消防クラブは、平成25年11月25日に開催された自治体消防65周年記念式典において、優良少年消防クラブとして表彰されました。

今後も、地域社会の防火防災普及活動を行い、安全な町づくりを目指し活動して参ります。



消防相互応援協定合同訓練の実施

市川市消防局

市川市南消防署(熊田築志署長)では、平成25年11月22日(金)市立妙典中学校において、消防相互応援協定合同訓練を実施しました。

この訓練は、消防組織法第39条の規定に基づく消防相互応援協定を締結する浦安市消防本部と災害時の連携及び円滑な消防体制の構築を図ることを目的として実施しました。

また、市立妙典中学校のご協力をいただき、学校の教員及び生徒が中心となって、防災意識の向上及び地域防災力の発展に向け訓練を実施しました。



救急隊員・医師合同研修会を開催

千葉市消防局

千葉大学医学部附属病院救急部・集中治療部と連携し、救急医療の最前線で活躍する医師と救急隊員との交流を深めるとともに、最新の救急医療に関する知識の習得及び技術の向上を目的として救急隊員・医師合同研修会を11月27日(木)に開催しました。

この研修会は、平成8年の開催から数えて今年で第19回目を迎え、近年の参加者数は200人を超える大規模な研修会となっており、本年は、県内消防本部職員を含む212名が参加されました。今年度の研修会では、「ドクターピックアップ要請のタイミングについて」と「産科転院搬送時において搬送途上C P Aとなった症例について」の症例発表のほか、医師、看護師、救急隊員の「それぞれの職域における教育についてのパネルディスカッション」や厚生労働省医政局指導課の長谷川先生による教育講演が行われました。

参加者からは、「発表者と助言者の連続したプレゼンがわかりやすかった。」「院内での研修体制を聞くことができ、参考となった。」「教育講演で、需要対策や搬送問題などを取り上げており、救急に関して考えるいい機会であった。」などの嬉しい声も聞かれ、消防と医療の「顔の見える関係」づくりができました。

日々の動き

防災危機管理部
消防協会 共同編集

- 平成26年 1月 6日 仕事始め
- 5日~2月9日 平成26年出初式(各市町村)
- 14~17日 消防団幹部特別研修(日消会館)
- 21日 平成25年度婦人防火研修会(千葉市)
- 24日 ちば大会運営委員会(千葉市)



平成25年度 全国統一防火標語

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

〈表紙の説明〉

「流鉄」 (東葛飾支部)

大正5年(1916)3月14日に沿線業者や住民の出資により「町民鉄道」として誕生し、再来年には100周年を迎える歴史ある鉄道です。

区間は馬橋駅(松戸市)から流山駅(流山市)までの5.7kmで、全6駅の沿線には、新撰組ゆかりの近藤勇陣屋跡や万華鏡ギャラリーなどみどころ満載となっております。

赤、青、緑など色とりどりの車両が走っており、鉄道ファンからの人気も高い路線です。

